

令和4年度 第1回 藤沢市地域福祉計画推進委員会

議 事 要 旨

I. 開催概要

1. 日 時 2022年(令和4年)7月28日(木)9時30分～11時40分

2. 会 場 藤沢市役所 本庁舎7階 7-1・7-2

3. 出席者

(1) 委員=21名

・会場出席者

石渡 和実、 松永 文和、 奥田 吉昭、 戸高 洋充、 木村 依子、
山口 燿子、 椎野 幸一、 浅野 朝子、 川原田 武、 村上 尚、
末吉 育子、 河原 寛子、 松沢 邦芳、

・オンライン出席者

鈴木 正貴、 宮久 雪代、 越智 明美、 市川 勤、 南部 久子、
川辺 克郎、 森 もと江、 江崎 康子

・欠席者

(2) 事務局=9名

・地域共生社会推進室：玉井室長、片山主幹、越川主幹、宮治室長補佐、
山中室長補佐、石田上級主査、小濱主査、佐藤主査、鎌田

4. 議 題

1. 開 会

2. 議 題

(1) 今年度のスケジュールについて

(2) 藤沢市地域福祉計画2026・藤沢市地域福祉活動計画について

①藤沢市地域福祉計画2026について

②藤沢市地域福祉活動計画について

(3) 次期計画改定に向けた地域福祉に関するアンケート調査について

3. その他

4. 閉 会

II. 会議の概要(議事要旨)

1. 開 会

事務局の事務連絡後、石渡委員長より挨拶があり議事に入った。

2. 議 題

(1) 今年度のスケジュールについて

《資料1に基づいて事務局 佐藤より説明》

→質疑なし

(2) 藤沢市地域福祉計画2026・藤沢市地域福祉活動計画について

①藤沢市地域福祉計画2026について

《資料2～資料3②に基づいて事務局 佐藤より説明》

○石渡委員

続けて、社会福祉協議会の村上委員から地域福祉活動計画について説明をお願いします。

②藤沢市地域福祉活動計画について

《当日資料、第4次藤沢市地域福祉活動計画に基づいて委員 村上委員より説明》

○石渡委員

藤沢市では、地域包括ケアシステムにおいて全国をリードしており、地域福祉計画と地域福祉活動計画は車の両輪のようなものである。今回の地域福祉活動計画は非常に親しみが持てる計画になっている。事務局と村上委員からの説明を受けて意見等はあるか。

○川原田委員

第4次藤沢市地域福祉活動計画はコロナ禍のもと作成され、コロナ禍の体験を活かした内容が盛り込まれているため、本計画は今後の地域福祉において役に立つ資料になると私は自負している。

○椎野委員

地域福祉活動計画策定後は、冊子をできるだけ現場に届けるようにしている。その際に、藤沢型地域包括ケアシステムの「藤沢型」とは何かと聞かれることがあるが、本冊子を見ることで理解いただけると思っている。市の地域福祉計画においても、一人一人に計画の内容を届けるためには、活動計画のように現場の活動事例を写真で紹介する等の工夫をする必要がある。

計画を住民に届けるためには人材も必要であるが、その中で私を含めた役員全員が一生懸命取り組んでいる。計画書の冊子を作ったとしても、その後の実際の

行動が大事だと思う。

○末吉委員

民生委員として活動する中で、住民同士がまとまろうという意識が昔と比べて希薄になってきていると感じている。藤沢市では転入者が増加しており、それともなって近隣同士の付き合い方が変化したためだと考えている。

しかし、災害が発生した際は近隣同士で助け合い、みんなが一致団結して同じ方向に進む必要があるため、本冊子を用いて災害時に備えた地域づくりを含めた、地域福祉の周知活動を行う必要があると考える。

そのためにも、私たち民生委員を含め地区社会福祉協議会が住民同士のつながりの希薄化について把握をした上で、計画の内容が住民に届くツールのようなものを考える必要があると考える。

○椎野委員

今困っているのは、子育てにしてもすべて1人でしなければいけないということ。昔はみんなで支え合うことができていたが、今は昔のような周りに世話を焼いてくれる人や親戚等が少なくなっている。こうした変化を的確に捉えなければ、本計画は浸透していかないと考える。

○川原田委員

本計画はあくまでも計画であり、計画を実行するための委員会は8月末に設ける。その中で、地域に活かすための施策や取組、地域の課題をどのように反映させていくか等、いただいた意見をたたき台に検討させていただきたいと考えている。

(2) 次期計画改定に向けた地域福祉に関するアンケート調査について

《資料4～7に基づいて事務局 鎌田より説明》

○石渡委員

回収率の向上のための工夫や、近年の社会情勢を踏まえたアンケート調査となっているが、アンケート調査に関して意見等あるか。

○山口委員

15ページの間31で記載されている「ICT」については、略語であるため説明が必要だと考える。

○松沢委員

アンケートには幅広い年代の方が回答されるため、略語や専門用語に関しては説明書きを記載していただきたい。

○河原委員

設問の内容が非常に分かりにくい印象を受けている。例えば、4ページの間9で「外出」とあるが、これには散歩も含まれるのか、といったように、回答者によって異なった解釈ができてしまう設問になっている。また、12ページの間24で「地域を支えるボランティア活動」とあるが、一般の方にはそれが何を指しているのか分からないと思う。もう少し丁寧にわかりやすい事例を入れ込めば回答しやすくなるのではないかと考える。

○石渡委員

13ページでは用語の注釈が記載されている。その他の用語も同様に、注釈が必要と思われるものに関しては入れ込みの検討をしていただきたい。

○椎野委員

自治会に加入している方々に対しては、防災に関する情報発信や、避難行動要支援者の安否確認等を行っている。一方で、自治会に入っていない方々には支援は行わないのか、といった意見もあるが、有事の際は全世帯を対象に支援を行うと約束をしている。しかし、自治会の加入率は70%であるため、残りの30%には地域福祉計画の情報が届かず、回覧も回らない。そういった方々に向けていかに情報を伝えられるかが今後の課題である。

○松永委員

9ページの間21、選択肢8「日常的に家事や家族の世話をしている子どもがいる」については、はっきりと「介護」という言葉を入れても良いのではないかと考える。子どもが家族や兄弟姉妹の面倒をみることは昔から日常的に起こっていて、現在においてもそういったことがあると思っている。問題はそれによって学校に行けなくなることであるため、正確に実態を把握するためにはもう少し踏み込んだ「介護」という言葉を入れても良いのではないかと考える。

続いて、資料1で計4回開催される委員会の内容が書かれているが、この内容だと年間を通してアンケートについて審議を行うという印象を受けてしまう。アンケートは計画に載せるために行うものではなく、アンケートの主旨、目的、他の取組とどのように関連付けていくか等を整理しながら、計画の実施やその後の進捗状況の評価等に活用していく必要があると感じている。そのためアンケートのスケジュールに限らず、計画全体の流れについても資料で明確にして欲しい。

○石渡委員

ヤングケアラーに関する設問は、他の自治体をもみても作成に苦勞をされているため、いただいた意見を踏まえて引き続き検討をお願いしたい。

○戸高委員

各選択肢についても、資料5新旧アンケート項目比較表と同様に前回調査票と比較ができる資料の作成をお願いしたい。

○事務局

戸高委員のご意見については各選択肢についても比較できる表を作成し、郵送やメール等で提供する。

松永委員のご意見については、おっしゃる通り資料1はアンケートにフォーカスした内容となっているため内容の変更を検討する。また、活動計画の周知や地域の皆さんの声を聞くこと等、本委員会ですぐフィードバックを行い、計画の推進を図っていききたい。

また、調査票内の略語や専門用語に関しては必要なものについて言い換えや注釈を入れる等の修正を行う。

○奥田委員

善行地区の老人会でアンケートを実施した結果、60%の方から「そっとしておいてほしい」という意見が出た。そのため、見守りの際に「煩わしい」など言われてしまった場合、どのように対応すればよいのかわからない。

地域福祉計画においてもこのようなアンケートを行い、「煩わしい」と言われた場合の対応について市でも検討していただきたい。

○石渡委員

奥田委員から新しい視点の意見をいただいた。「そっとしておいてほしい」は当事者にとっては良いかもしれないが、実際にそっとしていると命にかかわるような方々もいる。そういった方々の実態を把握することも地域福祉の大事な部分となるため、その辺りのこともつかめるアンケートになればよいと考えている。

○末吉委員

私たち民生委員も見回りの際に、「そっとしておいてほしい」と言われることがある。見守りが必要な方は実際にお話をすれば判断できるため、自立心が強く自身の老後のことについても考えられている方々に対しては、そっとしておくことも良いのではないかと考える。

○浅野委員

全ての人にもれなく手を伸ばすとあるが、実際には手が届かない方々もいらっしゃる。以前も申し上げたが、最近では新しい自治会が作れないところがたくさんあり、藤沢市ではそういった部分に手を伸ばしていると思うし、社会福祉協議会においても見守りを行い、何かあればお声がけをしている。また、必要がないという方々は、必要以上には手をかけない。市社協のこういった取組や活動は住

民の方々により知ってもらふ必要があり、そのためのPRが足りていないと感じている。

また、人々の暮らしが大きく変わり人との関係がより希薄になったと感じている。単純なことではあるが、まずはあいさつや声かけを本委員会においても取り組むべきであると考えている。

○江崎委員

調査票の表紙について、点線の枠内にある「地域のことや、日頃感じる生活の課題などを一番よく知っている地域の皆さんの参加と協力が必要になります。」という文章を単純に「あなたのお考えをお聞かせください」と書き換えること、また「みなさんの声を計画改定に活かしていくため、アンケート調査へのご協力をよろしくお願いいたします。」という文章についても「みなさん」を「あなたの」に書き換えた方が回答者に当事者意識が生まれて回答率も上がるのではないかと思う。

○松永委員

資料2「地域共生社会の実現に向けて」の資料は非常によくできていると思う。会議資料だけに限定せず、オープンデータとして公開するなど様々な活用方法があるのではないかと思う。また、アンケート結果や地域福祉ならではの内容も盛り込まれていてバランスの良い資料になっているため、行政計画のみならず様々な場において藤沢の現状や課題等を話し合う基本的な資料として活用できるのではないかと考える。

また、村上委員からも説明があったように、計画内で取り上げられている課題にのみ取り組むのではなく、紙面の都合上載せられなかった課題や、地域で活動されている方々が感じている課題等も含め、そこで挙げられた課題を継続してさまざまな場において取り組むべきだと考える。

○戸高委員

「そっとしておいてほしい」の意見の続きだが、障害をお持ちの方にお話を伺うと、なぜもっと早く相談をしなかったのだろうと思うことが非常に多くある。「そっとしておいてほしい」といった方々も本当に助けが必要な時は助けを求めてくるため、そういった方々に対しても情報は必要なものに絞って発信をする必要があると考える。

○市川委員

アンケート調査票について、資料2に記載されている藤沢市の人口予測データや高齢化率、人口のバランス問題等のデータを調査票の表紙に記載すれば、自身の住む地域の状況把握につながり、より危機感をもって回答にあたっただけ

るのではないかと考える。

○石渡委員

その他、アンケート調査に関すること、もしくは委員会の今後の在り方に関することでも構わないので、意見等はあるか。

○山口委員

様々な場で活動計画の内容を説明する際に、活動計画の冊子を配布できればと考えている。50部ほどいただくことは可能であるか。

○村上委員

少し紙の質が落ちる可能性があるが、必ずご用意する。

○山口委員

地域福祉計画を拝見した際は漠然としており全体像がつかみにくかったが、その点地域福祉活動計画は理解しやすいと感じている

○事務局

資料2の地域福祉に関する情報をアンケート調査票に入れ込むことができないかという意見をいただいたが、前回のアンケート調査の際は地域福祉の紹介冊子を添付していたという経緯があり、今回の調査においても同様に紹介冊子を添付する予定のため、いただいた意見を参考に改良を検討する。

その他、本日いただいたアンケート調査に関するご意見に関しては、修正等を行い更新版という形で随時みなさまに郵送・メール等でお届けする。また、本日いただけなかったご意見に関しては、資料7「地域福祉に関するアンケート調査」意見シートに御記入いただき、8月19日（金）までに提出をお願いします。

3. その他

特になし

・次回開催日：令和4年10月17日 本庁舎7階 7-1・7-2会議室

4. 閉会

以 上